

「アニメ」の新世紀へ

今回が最終回。ほっとするような叙しいような、である。アニメの門外漢のものながらも、なんとか(意地になって)少しずつはアニメやマンガにからめながら書いてきたつもりではある(からまっているかどうかは定かではないけれど)。

もし毎回ちゃんと読んでくれた方がいたら心から感謝したい。何言ってるのかわけのわからないものもあつたでしょう。だめですな。われながらどうも理屈っぽい。あるいはこじつけっぽい。言語学なんてガクモンやってるからかもしれない(言語学をやってるせいでは人の揚げ足ばかりとって嫌われている人もいる(みたいだ))。

言語学に限らずだいたいガクモンというのはそもそも「ことばにする」ということだ。「バイオロジ」とか「テクノロジ」などガクモンを意味する(「ナントカロジ」の「ロジ」はもともと「ログス」、要するに「ことば」ということである)。

「ログス」ということばはもつと古い伝統があるんだけど、振り返ってみると二十世紀は「ことばにする」世紀だつたような気がする。「ことばにする」ってことは説明するということでもあつたし、理屈づけるということでもあつた。科学の世紀だつたという人もいるね。だいたい同じことだと思っ

ことばでないものをことばにしてきた。そういう世紀だつた。ことばにするのがエライことだつた。そういう中でアニメは育つてきた。もちろんすでにアニメは繁栄の時を迎えている。「アニメ」のものとして、マニアのものとして、オタクキナーなものとして。

しかしもうそういう人たちが独占するものではない時代になってきた。すべての人がアニメを見る、すべての人が「ニュー

タイプ』を読むようになるという意味ではないよ(残念ながら!)。そうではなく、人間のつくりだす多くのものがアニメつぼくなり、すべての読むものが「ニュータイプ」つぼくなるってことだ(ある意味で)。

パーソナルコンピュータの移り変わりを見ればそれはすぐわかるでしょう。僕が多少コンピュータを使い始めた頃は画面はまだまっ黒だつた。暗いブラウン管にぼつぼつと文字を打ち込んでいる感じだつた。ところが今のパソコンをみなさん知ってるでしょ? ありやアニメですよ、完全に。CGまで行かなくてもすでに基本的な操作がアニメっぽい。

「ログス」の時代から「アニメ」の時代へ(多少比喩的に)次の世紀は確実にそういうふうに移る開ける。言語学ですらそうだと思っけど、また「ログス」つぼくなるからやめましょ。ことばや屁(?)理屈ではなくて人間が全体的に全身をもって感ずることが大切になっていくでしょう。「アニメ」とはもともと「命がある」、「生き生きしている」ということ(「アニメマル」と同じだね)。

「アニメ」だけじゃなくすべてのことに「アニメ」的に生きていきましょ。さようなら。

長い間ありがとう!!
また会う日まで



BYなおりん